

平成 25 年度 私立学校初任者研修 九州地区研修会 実施報告

平成 25 年度私立学校初任者研修九州地区研修会は、7 月 3 日(水)から 5 日(金)の 2 泊 3 日の日程で、九州 7 県と沖縄県から初任者教員 157 名が参加して宮崎市のサンホテルフェニックスで行われた。



開会式では、開催県の宮崎県私立中学高等学校校長会後藤信一会長による開会のことば、主催者の日本私学教育研究所中川武夫所長の挨拶に続き宮崎県私立中学高等学校協会添田昌邦会長から歓迎の挨拶があった。

研修会は、まず「私学教育の現状と課題」と題して当研究所中川武夫所長が講演し、現在の教育政策の方向性や私学の在り方、私学教員としての心構えを説いた。続いて当研究所大森隆寛専任研究員が「初任者におくる教師の心得」として、価値観の多様化や大人のモラルの低下の中で教師が「先ず(先頭に立って)生きる」者として生徒の範た

る姿勢と指導技術を習得する大切さを強調した。

2 日目は、前宮崎第一中学・高等学校長の志垣澄幸氏による「学習指導に求められる教師の資質と能力について」と題する講演で始まった。志垣氏は、教師と医師を比較し、命を預かる医師に確実な医療技術が求められるのと同様、教師にも生徒の学力を確実に伸ばすだけの指導技術が必要であるとし、参加した教職初任者の努力を求めた。その後グループ討議に移り、「基礎学力向上を目指すための学習指導の工夫」「大学進学に耐えうる学力をつけるための学習指導の工夫」をテーマに参加者が 7 組に分かれて司会役の教員を中心に討議を行った。



午後の研修では元宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校校長の長友良夫氏が講演「生徒指導に求められる教師の資質と能力について」を行い、生徒指導が生徒の自己指導力を育てることであり、そのためには教師と生徒の共感的関係を築くことが不可欠であることを強く訴えた。続いて午前中に続き、「基本的な生活習慣の指導」「いじめ事象の理解と対応」について 7 組に分かれてグループ討議に入った。主に、欠席・遅刻が多い生徒や家庭環境の異なる生徒への対処、いじめがあった場合の生徒双方への対応などについて意見交換や討議が行われた。



18 時からは参加者全員で夕食交流会が行われた。開会式の挨拶で、本研修会の狙いの一つが参加者の交流やネットワークづくりにあるとの言葉があったが、参加者は各県ごとに協力して個性的なパフォーマンスを披露したりテーブルを超えて情報交換をするなど、会場内は笑顔と熱気に包まれた。なおこの席で、次年度開催県の大分県別府溝部学園高等学校佐藤清信校長より、平成 26 年度九州地区初任者研修会が今年度と同日程で別府市城島高原において開催することが発表された。

最終日は「部活動における先輩教師の実践」と題してシンポジウムが行われた。

日章学園高等学校前ボクシング部顧問菊池浩吉氏、小林西高等学校女子ソフトボール部顧問黒木秀美氏、宮崎学園中学・高等学校合唱部顧問有川サチ子氏の 3 名をシンポジストに迎え、日章学園高等学校日高勝彦教頭が司会を務めた。シンポジストはいずれも部活動についてそれぞれ長い指導歴をもち、全国的な戦績を残した先生方である。まず 3 名の先生がそれぞれ、自身の指導理念やこれまで部員に求めてきたことなどを熱く語り、教師の情熱や強い意志、指導技術の重要性を参加者に強く求めた。その後は、参加者が事前に質問用紙に記入した内容を司会者が紹介してシンポジストが答えるという形で進み、参加者が日ごろから抱えている切実な問題に対して厳しくも温かいアドバイスがあった。なお、時間の関係で取り上げることができなかった質問については、シンポジストが用紙を持ち帰って個々に回答することが司会者より約束された。



その後、参加者は研修レポートを作成・提出して閉会式を迎えた。閉会式では各県の代表者が一言ずつ感想を述べ、大森隆實研究員より修了書が渡された。続いて大森研究員が、参加者に教員としてのたゆまぬ指導技術の向上とともに、つねに各私学の建学の精神に立ち返って研鑽を積み次世代を担う若者を育ててほしいという激励と、参加者ならびに研修会実施に尽力くださった開催県をはじめ各県の役員・実行委員の先生方への謝辞を述べ、3 日間の研修を無事終了した。

遠方から、また多忙な時期にこの研修会参加くださった先生方が、それぞれ学んだことを自校に帰ってさらに深く研究して日々の実践に役立てるとともに、ここで生まれたネットワークを活かして活躍してくださることを期待したい。